

備前市施策評価シート

施策名 (小項目)	歴史文化の活用と伝統文化の継承	コード	作成者	役職	生涯学習課長
		02-03-10		氏名	田原義大
			電話	64-1841	
		このシート作成に要した時間		2.0 時間	

この施策の アピール ポイント	本市には、日本を代表する焼物「備前焼」や近世の教育資産「閑谷学校」、また多くの文化財があり、後世に引き継ぐとともに広く活用していく。
-----------------------	--

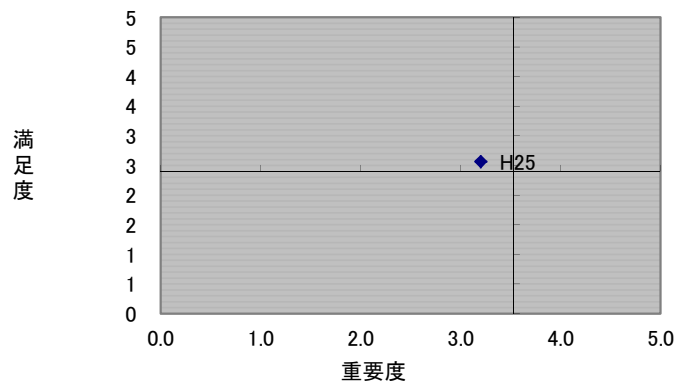
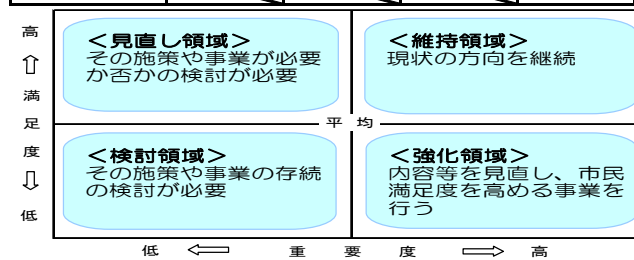
この施策の 平成25年度の 施政方針	「備前市歴史文化基本構想」に基づき、地域の資産を活かし、備前市らしいまちづくりの準備を進める。地域を代表する資源である備前焼については、市指定無形文化財の制度活用を検討するなど、一層の振興を図り、窯業地備前としての情報発信を行う。 閑谷学校の世界遺産登録推進については、世界遺産登録検討専門委員の指導を受けながら「近世の学び」を研究し、事業を進める。
--------------------------	--

<備前市総合計画の内容から記載する>

① 政策の体系	基本構想 (大項目)	自己実現施策「生涯学習、歴史、文化」
	基本計画 (中項目)	豊かな自然、歴史、文化の中で心豊かに暮らせるまち
② 対象と目的 (誰のために、何のために)	旧閑谷学校や備前焼をはじめとするびぜんの歴史や文化財に関心のある人に対し、積極的に公開活用し、地域文化への理解をはかる。	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	備前市内には、旧閑谷学校、備前焼、瀬戸内海からの海産物、山々の自然環境など、豊かな歴史、文化、自然があり、それらは備前焼などの窯業をはじめ、現代の生活の中で脈々と息づいています。これらの地域文化資源は、まちを構成する重要な要素となっていることから、大切に守りながら後世の人につないでいくとともに、それらの価値を十分に理解し、まちづくりに生かしていく取り組みが必要です。また、市内各地域には古くから伝わる祭りや芸能が数多く残っており、地域の人々の手で保存・継承していくことが望まれています。	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域文化資源の保存と活用</li> <li>情報発信</li> <li>伝統文化の保存</li> <li>旧閑谷学校世界遺産登録推進</li> <li></li> <li></li> <li></li> </ul>	

⑤ 市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度				H25
重要度				3.20
満足度				2.57



調査結果に対するコメント、市民の反応等	旧閑谷学校世界遺産登録検討専門委員会では、閑谷学校には近世の教育要素の全てが内包されており、正に「学びの原郷」と呼ぶにふさわしいと結論付けられた。
調査対象でない施策は、市民の反応等	

⑥ 施策成果指標 (基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績			評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H23	H24	H25			H26	H27
文化施設の年間入館者数	目標	人	7,000	8,000	8,000	市で管理運営する歴史文化施設 (歴史民俗資料館・加子浦歴史文化館・埋蔵文化センター) への入館者数	H26	8,000
	実績	人	6,182	6,408	5,813		H28	10,000
	達成率	%	88.3	80.1	72.7		H34	10,000
	ベンチマーク							
閑谷学校のことを来訪者に説明できる市民の割合	目標	%		63	63	市民意識調査結果 (H25は未実施)	H26	63
	実績	%		61.3	-		H28	63
	達成率	%		97.3	#VALUE!		H34	65
	ベンチマーク							
世界遺産シンポジウム参加者数	目標	人	200	200	220	閑谷学校を理解するシンポジウムへの参加者数	H26	220
	実績	人	194	200	110		H28	250
	達成率	%	97.0	100.0	50.0		H34	250
	ベンチマーク							
指定文化財等対応件数	目標	件	200	200	300	地域内文化財や文化遺産の調査・管理対応件数	H26	300
	実績	件	315	180	165		H28	300
	達成率	%	157.5	90.0	55.0		H34	300
	ベンチマーク							

⑦ 目標達成に必要な新規事業 (裏面 施策構成事務事業以外の事業) 及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果

⑧ 施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断	理由 (なぜ、そのランクと評価したのか)
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	3		文化施設への入場者数が多ければ、それだけ歴史・文化に触れる機会の創出が図られた、あるいは関心を持った人が多くなったといえる。
2 <事業構成の適当性> 手段は最適か?	3		地域文化資源の保存と活用、伝統文化の保存のため、積極的な情報発信を行うことは必要である。また、旧閑谷学校世界遺産登録を進めることで、地域の誇りの醸成と魅力発信につながる。
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは?	3		少子高齢化と人口減少が進む中、施設への入場者数は減少傾向にあるが、市の歴史文化を学び自分の住む地域に愛着をもってもらうには、備前の歴史文化に触れる機会を創出のため魅力ある企画展等を定期的に開催していく必要がある。
進行年度 (H26年度) の取組内容 (課題解決状況)		旧閑谷学校が世界遺産暫定一覧表に登載へ向けて専門家による調査研究を進めるとともに、これまでの研究成果をまとめ、文化庁へ報告する。江戸時代の様々な教育を「学びの原郷」である閑谷学校を通じて多くの市民に理解してもらい取り組みを実施するとともに、これらの情報発信も積極的にを行う。また、「日本遺産」等、国の動向も注視しながら取り組んでいく必要がある。	
翌年度 (H27年度) の取組目標		備前市歴史文化基本構想に基づき地域文化資源を総合的に活用するためのメニューを展開していく。備前焼の歴史については小規模発掘やフォーラム開催により調査研究や情報発信が進んでいる。備前焼陶器窯跡については、整備委員会の指導を受け、関係機関と協議しながら伊部西大窯跡の指定地の拡大を検討する。	
二次評価者コメント		世界遺産登録を目指している閑谷学校を広くPRし、閑谷学校の素晴らしさをより多くの方に見に来ていただけるよう努めてください。そのほかにも3つの史跡があり、文化財の活用を考えていきましょう。	基本施策への貢献度
役職 教育次長 氏名 末長 章彦			3 中立

施策構成事務事業の評価

施策を構成する 事務事業	細事業	事業 分類	事業費等（単位：千円，人）										施策への 貢献度
			平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度	
			直接 事業費	人件費	人工数	直接 事業費	人件費	人工数	直接 事業費	人件費	人工数	当初予算	
1	文化財保護管理運営事業	補助	10,128	6,499	0.76	3,337	8,308	0.99	14,364	9,916	1.10	35,128	☆☆☆☆☆
	備前焼総合調査史跡整備事業	補助	5,444	4,053	0.48	5,735	879	0.10				H25以降廃止	☆☆
	埋蔵文化財管理運営事業	単市	3,586	2,776	0.30	4,479	3,154	0.35	6,747	2,380	0.25	9,238	☆☆☆
2	旧閑谷学校世界遺産登録推進委員会事務事業	単市	950	1,983	0.23	950	924	0.11	1,150	4,021	0.41	950	☆☆
	旧閑谷学校世界遺産登録推進事業	単市	1,620	6,332	0.74	761	4,507	0.56	1,065	2,964	0.29	2,416	☆☆☆
3	歴史民俗資料館管理運営事業	単市	8,059	916	0.11	7,470	1,412	0.16	8,738	1,743	0.21	9,452	☆☆☆
4	加子浦歴史文化館管理運営事業	単市	5,520	6,221	0.78	5,123	6,323	0.80	5,740	8,043	1.01	5,105	☆☆☆
この施策に費やした資源（単位：千円，人）			平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度	
			35,307	28,780	3.40	27,855	25,507	3.07	37,804	29,067	3.27	62,289	